



令和元年度
県政世論調査
概要報告書



静岡県

目 次

調査の概要	1
(生活についての意識)	
暮らし向き	2
日常生活の悩みや不安	3
静岡県の住みよさ	4
(県の仕事に対する関心)	
県政への関心度	5
行政機関への意見や要望、不満	6
広報媒体の浸透度	8
日常の課題や生活における意識	12
自殺に関する意識	18
荒廃森林の再生と「森林（もり）づくり県民税」	20
静岡県における人口減少	21

調査の概要

1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) 自殺に関する意識
- (4) 荒廃森林の再生と「森林（もり）づくり県民税」
- (5) 静岡県における人口減少

3 調査の設計

- (1) 調査地域 静岡県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の県民
- (3) 標本数 4,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（配布及び回収）
- (6) 調査時期 令和元年 6 月 19 日～7 月 2 日
- (7) 調査機関 株式会社東京商工リサーチ

4 回収結果

	18 歳以上の 推定人口	標本数	回収率 (%)	有効回収率 (%)
東 部	1,180,632	1,339	686 (51.2)	686 (51.2)
中 部	1,146,967	1,268	657 (51.8)	657 (51.8)
西 部	1,315,458	1,393	783 (56.2)	783 (56.2)
地域不明			96 (—)	93 (—)
全 県	3,643,057	4,000	2,222 (55.6)	2,219 (55.5)

この冊子の読みかた

- 1 結果は百分率で表示し、小数第 2 位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 数値やグラフの中の「件数」、「n」（number of cases の略）は回答者総数（あるいは分類別の該当者数）を示し、回答比率はこれを 100% で表した。質問の「SQ」（Sub-Question の略）は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問を示す。

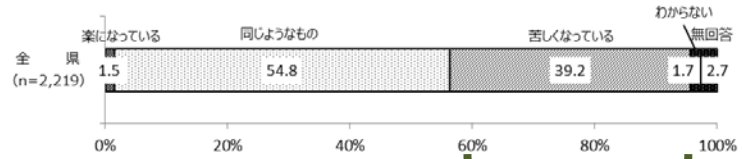
暮らし向き - 「苦しくなっている」が 39.2%

Q1 お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべて楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。(〇は1つ)

SQ お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由は何ですか。(〇は3つまで)

暮らし向き

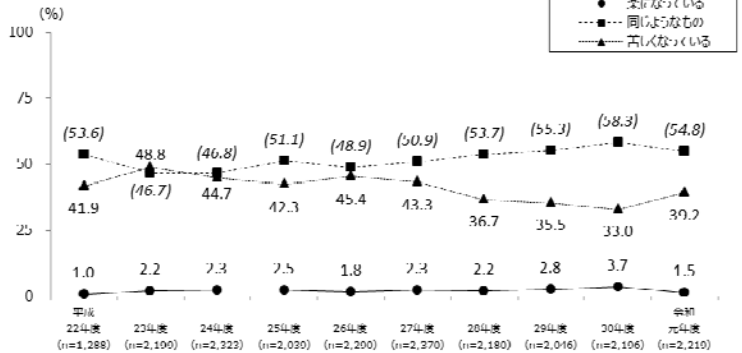
●暮らし向きが「同じようなもの」と回答している人は 54.8%、「苦しくなっている」人は 39.2%となっている。



経年比較

●平成 22 年度以降の推移でみると、10 年連続で「同じようなもの」と回答した人の割合が 5 割前後から 6 割弱となっている。

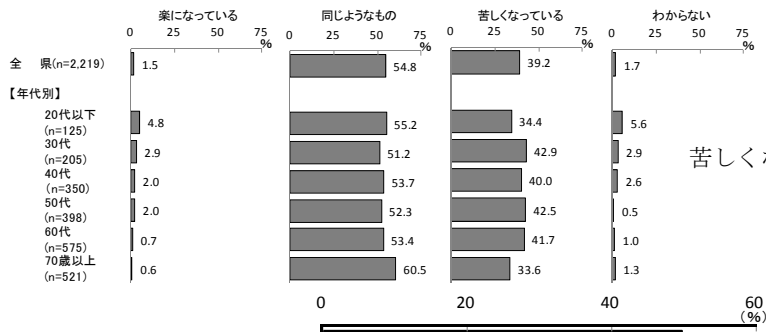
「苦しくなっている」は、平成 22 年度以降 6 年連続で 4 割を上回っていたが、平成 28 年度から 4 年連続で 4 割を下回っているものの、今年度は前年度から 6.2 ポイント高くなった。



年代別

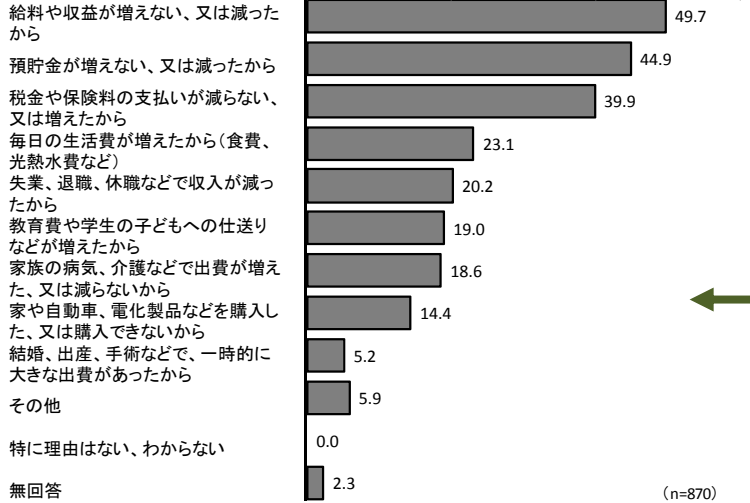
●年代別にみると、「同じようなもの」と回答した人の割合はどの年代も 5 割を超えている。

また、「苦しくなっている」は『70 歳以上』において 33.6%と最も低く、『30 代』で 42.9%と最も高くなっている。



SQ 苦しくなっている理由

●暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由については、「給料や収益が増えない、又は減ったから」と回答した人の割合が 49.7%と最も高く、次いで「預貯金が増えない、又は減ったから」が 44.9%、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」が 39.9%、「毎日の生活費が増えたから(食費、光熱水費など)」が 23.1%となっている。



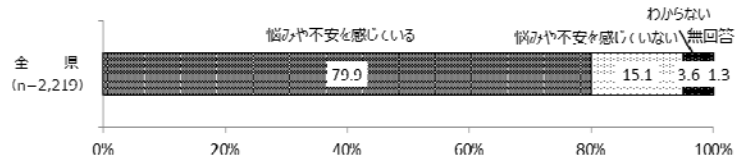
日常生活の悩みや不安 - 「悩みや不安を感じている」人が79.9%

Q2 あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも特に悩みや不安は感じていませんか。(〇は1つ)

SQ 悩みや不安を感じていることは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

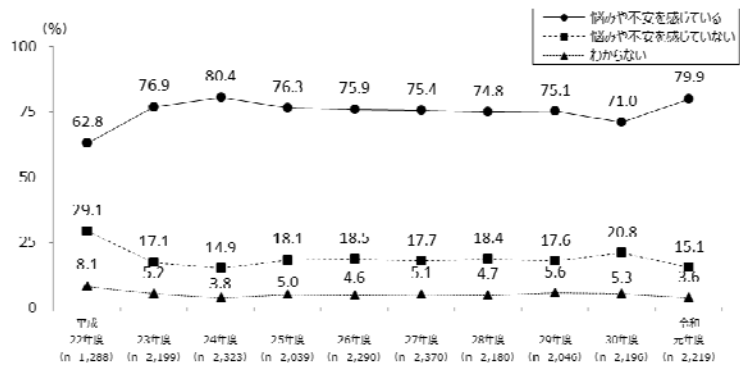
日常の悩みや不安

●日常生活の悩みや不安について「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合が79.9%で最も高く、「悩みや不安を感じていない」は15.1%にとどまっている。



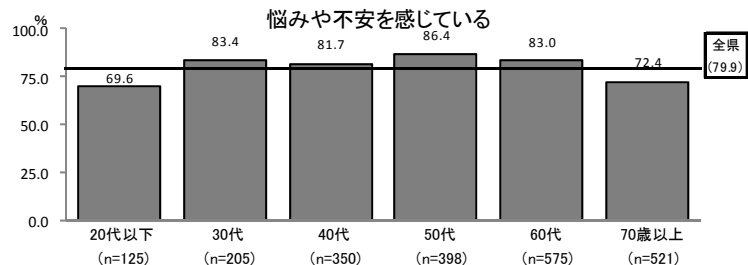
経年比較

●平成22年度以降の推移でみると、平成22年度は「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合が6割台だったものの、平成23年度以降においては、7割を上回っている。今年度(79.9%)は前年度(71.0%)から8.9ポイント高くなっている。



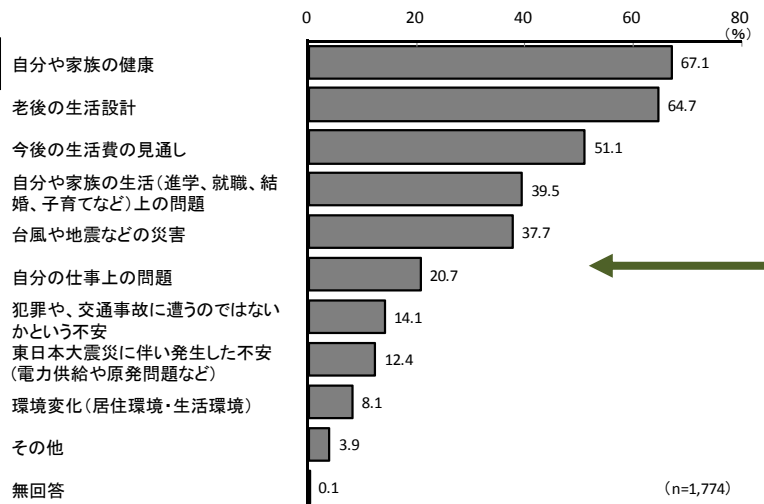
年代別

●年代別にみると、「悩みや不安を感じている」は『20代以下』(69.6%)において7割を下回って最も低くなっている。



SQ 悩みや不安の内容

●悩みや不安の内容については、「自分や家族の健康」と回答した人の割合が67.1%と最も高く、次いで「老後の生活設計」が64.7%、「今後の生活費の見通し」が51.1%、「自分や家族の生活(進学、就職、結婚、子育てなど)上の問題」が39.5%などとなっている。



静岡県の住みよさ -住みよいところだと「思う」人が87.8%

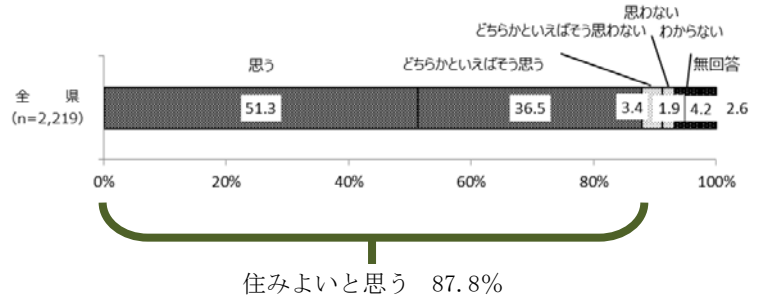
Q3 あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。(〇は1つ)

SQ あなたが、静岡県は住みよいところだと思う理由はなんですか。(〇は3つまで)

静岡県の住みよさ

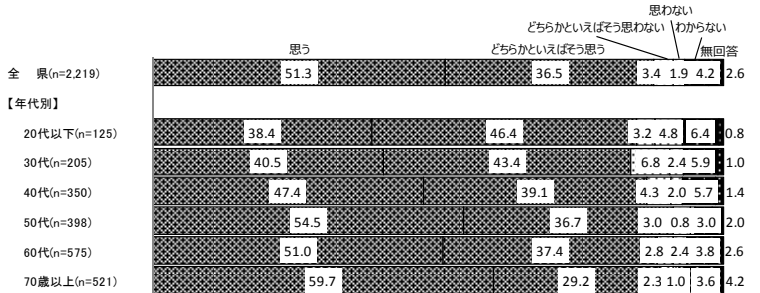
●静岡県は住みよいところかどうかについては、「思う」と回答した人の割合が51.3%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が36.5%、「わからない」が4.2%などとなっている。

「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた87.8%が静岡県を住みよいところだと思うと回答し、「思わない」(1.9%)と「どちらかといえばそう思わない」(3.4%)を合わせた5.3%が静岡県は住みよいところだと思わないと回答している。



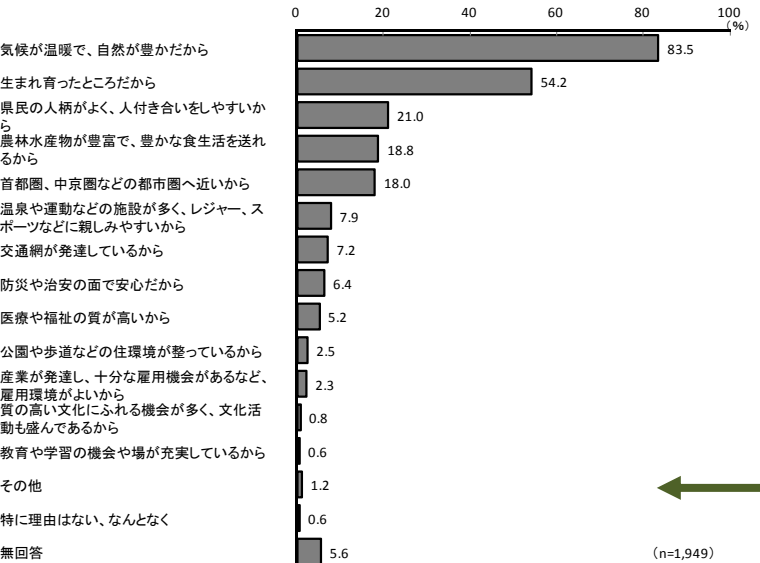
年代別

●年代別にみると、「思う」と回答した人の割合が『70歳以上』(59.7%)において最も高くなっている。



SQ 住みよいところだと思う理由

●静岡県が住みよいところだと思う理由については、「気候が温暖で、自然が豊かだから」と回答した人の割合が83.5%と最も高く、次いで「生まれ育ったところだから」が54.2%、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」が21.0%となっている。



県政への関心度 — 「関心がある」人は60.4%

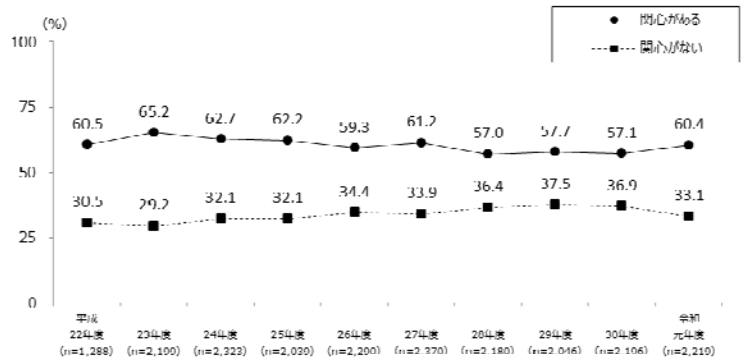
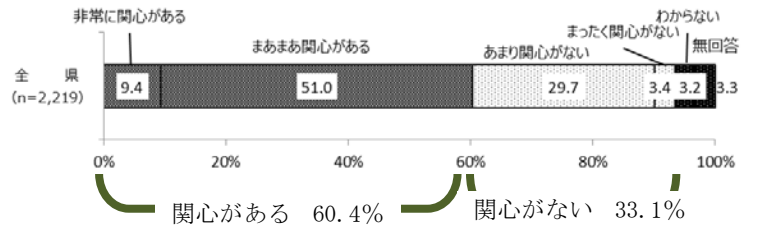
Q4 あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。(○は1つ)
SQ1 県政に関心がある理由はなんですか。(○は1つ)
SQ2 県政に関心がない理由はなんですか。(○は1つ)

県政への関心度

● 県政への関心の有無については、「非常に関心がある」と回答した人と「まあまあ関心がある」と回答した人を合わせた「関心がある」人の割合は60.4%で、一方、「まったく関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた「関心がない」人の割合は33.1%で、県政への関心がある人の方が高くなっている。

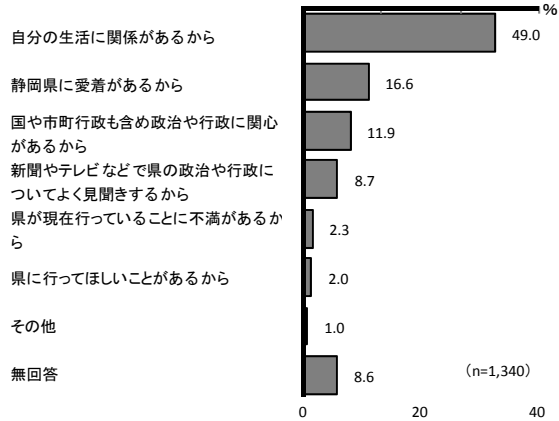
経年比較

● 平成22年度以降の推移でみると、「関心がある」人の割合は平成23年度において65.2%と最も高くなり、平成24年度以降は6割前後で推移している。今年度は3年ぶりに6割台となった。



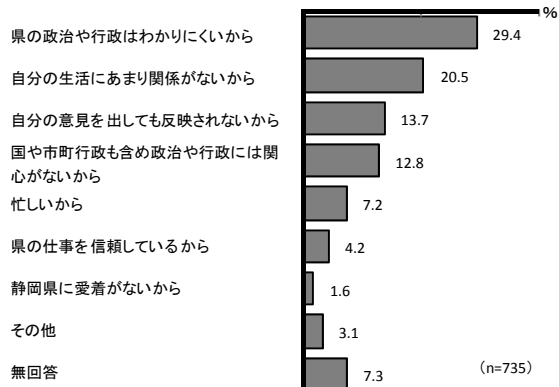
SQ1 関心のある理由

● 関心がある理由については、「自分の生活に関係があるから」と回答した人の割合が49.0%と約半数を占め最も高く、次いで「静岡県に愛着があるから」が16.6%、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」が11.9%、「新聞やテレビなどで県の政治や行政についてよく見聞きするから」が8.7%、「県が現在行っていることに不満があるから」が2.3%、「県に行ってほしいことがあるから」が2.0%、「その他」が1.0%、「無回答」が8.6%となっている。



SQ2 関心のない理由

● 関心がない理由については、「県の政治や行政はわかりにくいから」と回答した人の割合が29.4%と最も高く、次いで「自分の生活にあまり関係がないから」が20.5%、「自分の意見を出しても反映されないから」が13.7%、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」が12.8%、「忙しいから」が7.2%、「県の仕事を信頼しているから」が4.2%、「静岡県に愛着がないから」が1.6%、「その他」が3.1%、「無回答」が7.3%となっている。



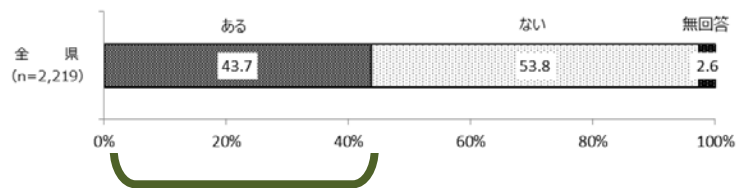
行政機関への意見や要望、不満

—行政機関に意見や要望、不満が「ある」人が43.7%

- Q5** あなたは、この1年間に行政機関の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたりしたことがありますか。(〇は1つ)
- SQ1** それは、どの行政機関が担当する仕事ですか。(〇はいくつでも)
- SQ2** その県が担当する仕事についての意見や要望、不満は、県に伝える必要があると思いましたか。(〇は1つ)
- SQ3** それでは、そのことを県に伝えましたか。(〇は1つ)
- SQ4** どのような手段で伝えましたか。(〇はいくつでも)
- SQ5** 意見や要望不満があっても、県に伝えなかった主な理由は何ですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。
- SQ6** どうしてそのように思ったのですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。

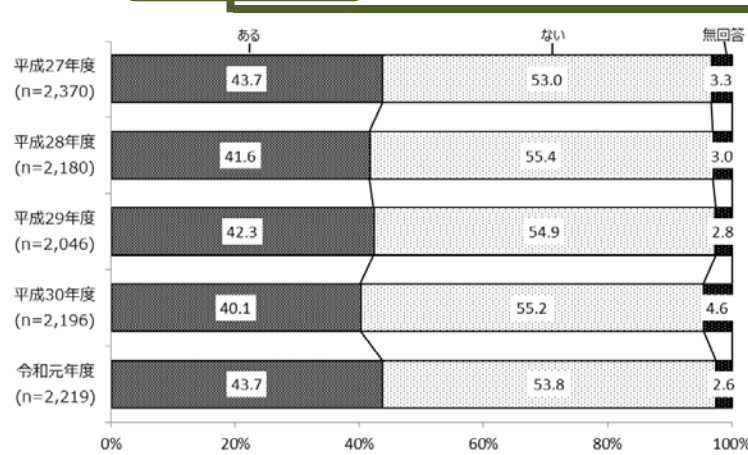
行政機関への意見や要望、不満

●行政機関への意見や要望、不満の有無については、「意見等がある」と回答した人の割合が43.7%、「意見等がない」は53.8%となっている。



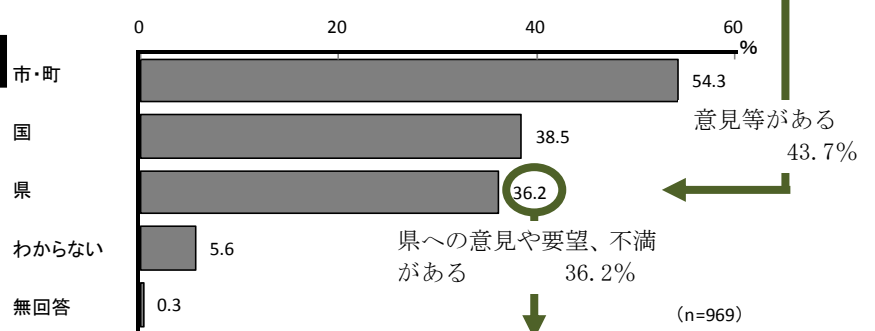
経年比較

●平成27年度以降の推移でみると、「意見等がある」は毎年度4割台で推移している。



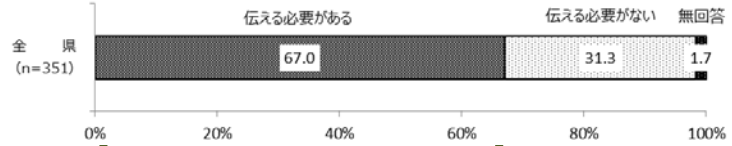
SQ1 担当する行政機関

●意見等を持った仕事の担当行政機関については、「市・町」と回答した人の割合が54.3%と最も高く、次いで「国」が38.5%、「県」が36.2%となっている。



SQ2 伝達の必要性の有無

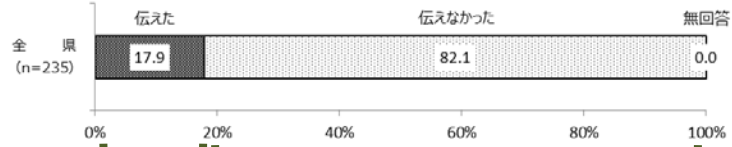
- 県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝える必要がある」と回答した人の割合は67.0%、「伝える必要がない」は31.3%となっている。



伝える必要がある 67.0%

SQ3 伝達の有無

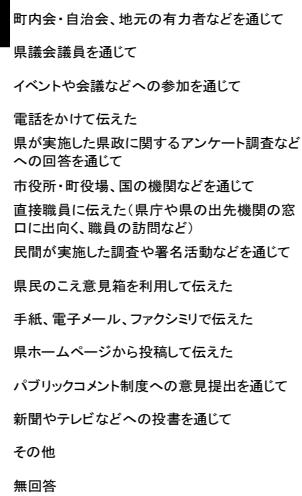
- 県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝えなかった」と回答した人の割合が82.1%と大半を占め、「伝えた」は17.9%にとどまっている。



伝えた 17.9%

SQ4 伝達方法

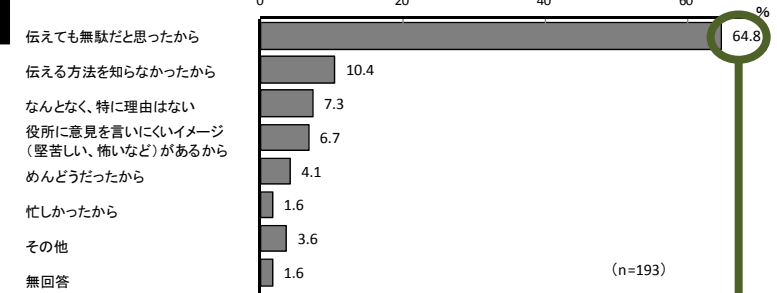
- 県の仕事について意見等がある人が県に伝えた方法は、「町内会・自治会、地元の有力者などを通じて」と回答した人の割合が38.1%で最も高く、次いで「県議会議員を通じて」と「イベントや会議などへの参加を通じて」がそれぞれ19.0%となっている。



伝えなかった 82.1%

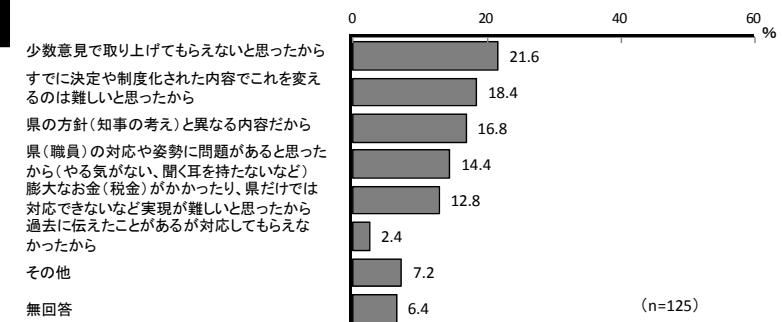
SQ5 伝達しなかった理由

- 意見等があっても県に伝えなかった理由は、「伝えても無駄だと思ったから」と回答した人の割合が64.8%と最も高く、次いで「伝える方法を知らなかったから」が10.4%となっている。



SQ6 「伝えても無駄だと思った」理由

- 伝えても無駄だと思った理由については、「少数意見で取り上げてもらえないと思ったから」と回答した人の割合が21.6%と最も高く、次いで「すでに決定や制度化された内容でこれを変えるのは難しいと思ったから」が18.4%、「県の方針(知事の考え)と異なる内容だから」が16.8%となっている。



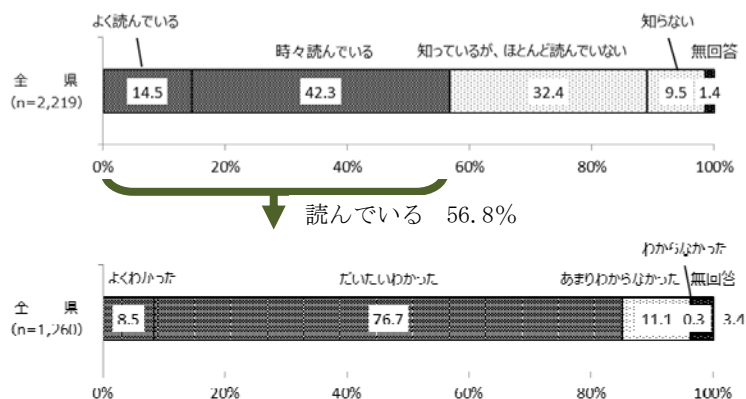
広報媒体の浸透度 — 「県民だより」を「読んでいる」人は56.8%

Q6 あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。それぞれについて、1つだけ選んでください。(〇は1つ)

SQ 内容はわかりやすかったですか。(〇は1つ)

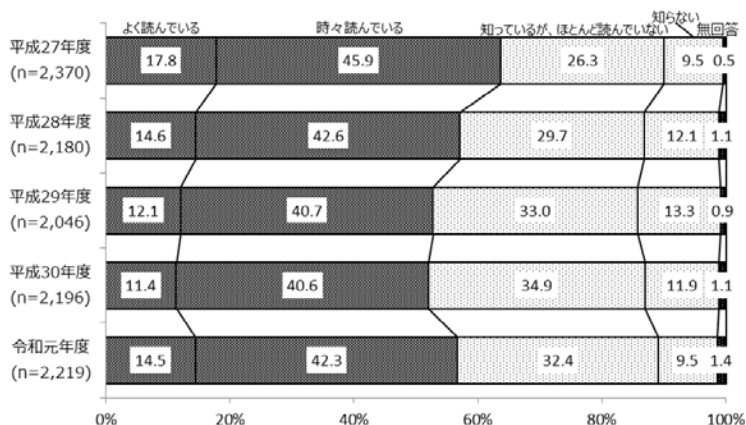
県民だより

- 県民だよりの浸透度については、「よく読んでいる」(14.5%)と「時々読んでいる」(42.3%)を合わせた56.8%が県民だよりを読んでいる。
- 県民だよりを読んでいると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた85.2%の人がわかりやすかったと回答している。



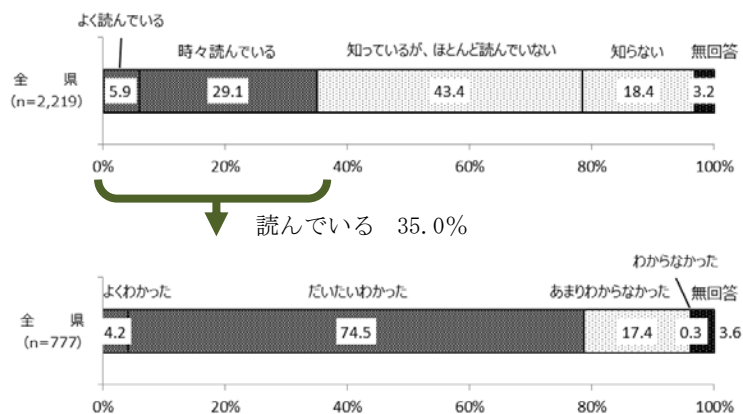
経年比較

- 平成27年度以降の推移でみると、県民だよりを読んでいる人の割合は、3年連続で前年度と比べ減少したが、今年度は前年度と比較して4.8ポイント高くなった。



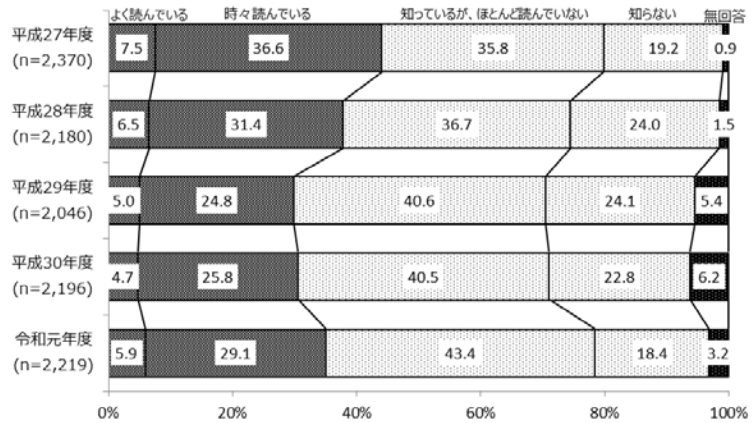
静岡県議会だより

- 静岡県議会だよりの浸透度については、「よく読んでいる」(5.9%)と「時々読んでいる」(29.1%)を合わせた35.0%が静岡県議会だよりを読んでいる。
- 静岡県議会だよりを読んでいると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた78.7%の人がわかりやすかったと回答している。



経年比較

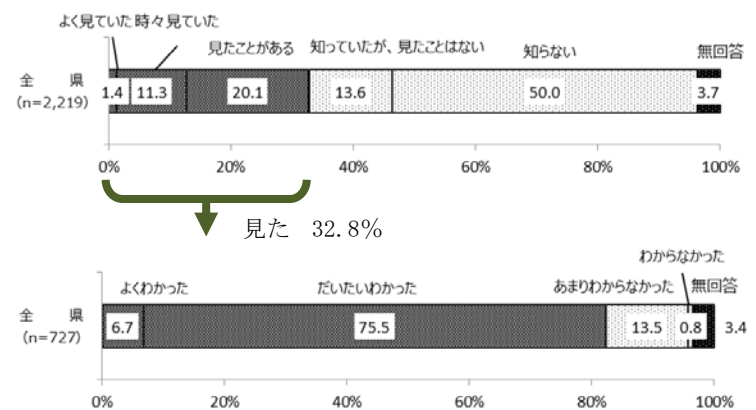
●平成27年度以降の推移でみると、静岡県議会だよりを読んでいる割合は、前年度増の3割半ばとなっている。なお、静岡県議会だよりを認知している割合は毎年度7割台で推移している。



テレビ広報番組・テレビコマーシャル

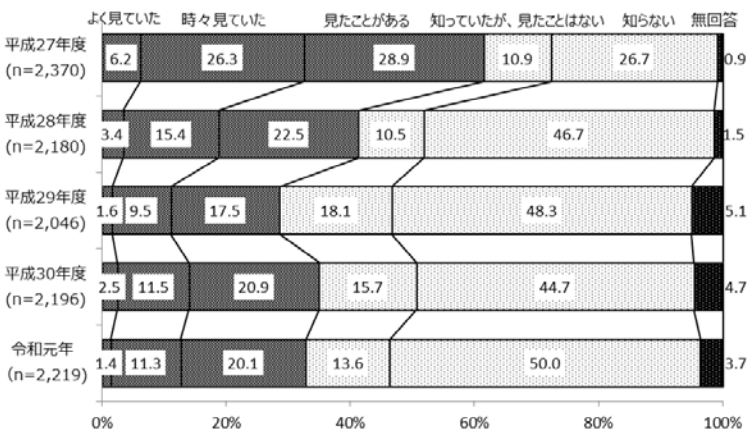
●テレビ広報番組・テレビコマーシャルの浸透度については、「よく見ていた」(1.4%)、「時々見ていた」(11.3%)、「見たことがある」(20.1%)と回答した人を合わせた32.8%がテレビ広報番組・テレビコマーシャルを見ている。

●テレビ広報番組・テレビコマーシャルを見ていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた82.2%の人がわかりやすかったと回答している。



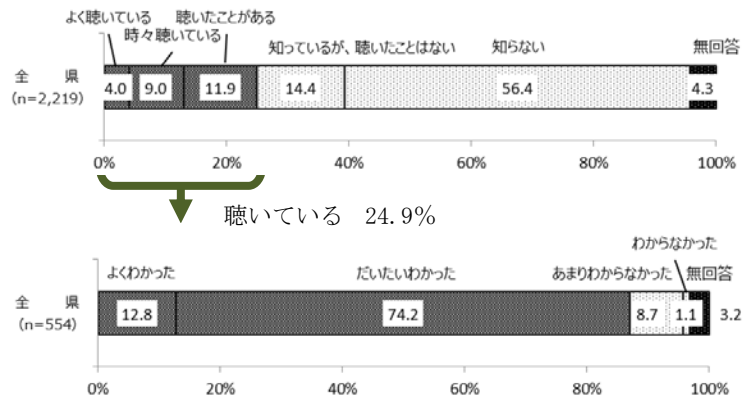
経年比較

●平成27年度以降の推移でみると、テレビ広報番組・テレビコマーシャルを見ていると回答した人の割合は、平成27年度(61.4%)が最も高く、今年度(32.8%)はそれよりも28.6ポイント低くなっている。



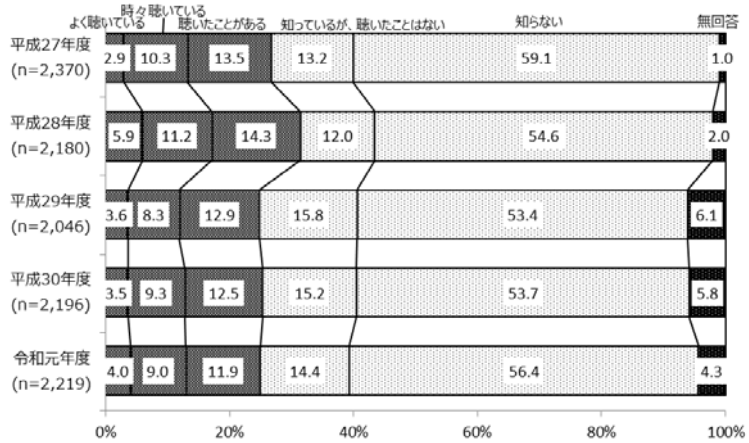
ラジオ広報

- ラジオ広報の浸透度については、「よく聴いている」(4.0%)と「時々聴いている」(9.0%)、「聴いたことがある」(11.9%)を合わせた24.9%がラジオ広報を聴いている。
- ラジオ広報を聴いていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた87.0%の人がわかりやすかったと回答している。



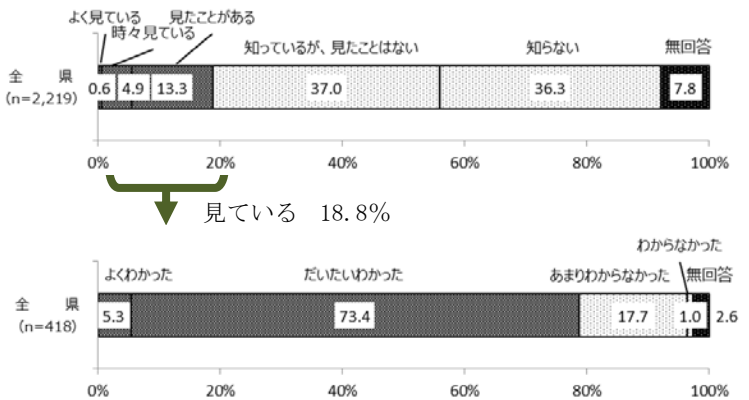
経年比較

- 平成27年度以降の推移でみると、ラジオ広報を聴いている人の割合は、今年度(24.9%)は前年度(25.3%)と比較して0.4ポイント下回り、微減となっている。



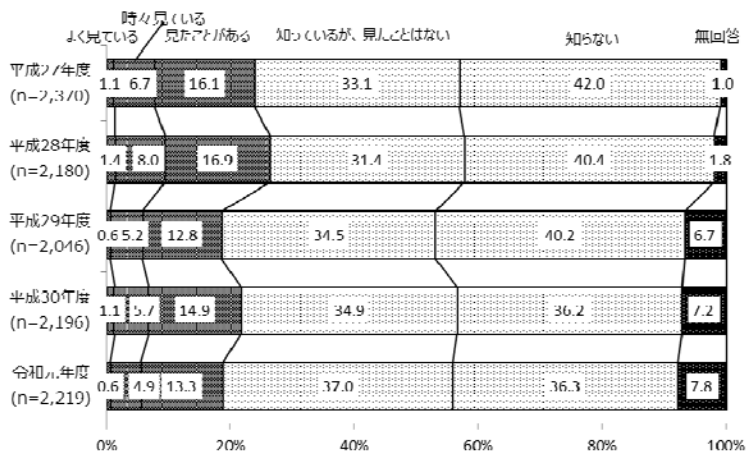
県のホームページ

- 県のホームページの浸透度については、「よく見ている」(0.6%)、「時々見ている」(4.9%)、「見たことがある」(13.3%)を合わせた18.8%が県のホームページを見ている。
- 県のホームページを見ていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた78.7%の人がわかりやすかったと回答している。



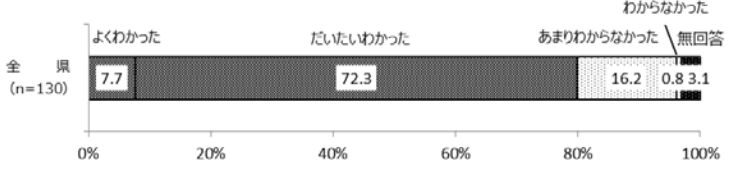
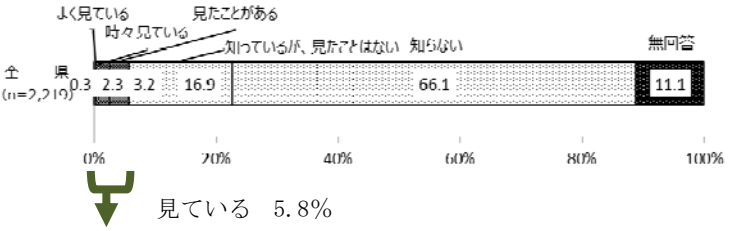
経年比較

- 平成27年度以降の推移でみると、県のホームページを見ている割合は、平成30年度は2割以上となったが、今年度は2割を下回った。



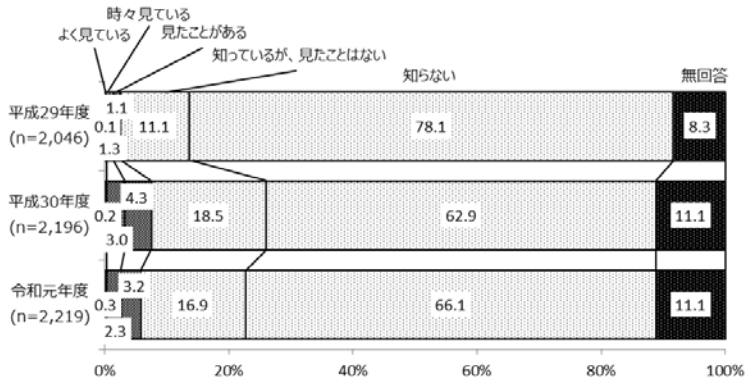
SNS

- SNSの浸透度については、「よく見ている」(0.3%)、「時々見ている」(2.3%)、「見たことがある」(3.2%)を合わせた5.8%がSNSを見ている。
- SNSを見ていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた80.0%の人がわかりやすかったと回答している。



経年比較

- 平成29年度以降の推移でみると、SNSを見ている割合は、今年度(5.8%)は前年度(7.5%)と比較して1.7ポイント下回っている。



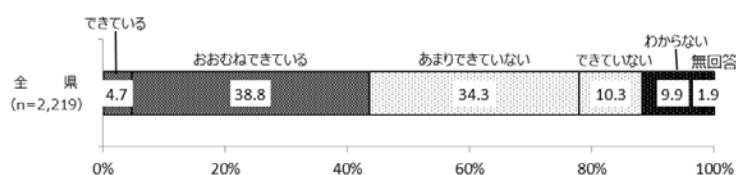
日常の課題や生活における意識

Q7 静岡県では、次の「有徳の人」づくりを進めています。あなたは、ご自身が日頃からこのような行動ができていると思いますか。(〇は1つ)

※「有徳の人」とは、「個人として自立し、人との関わり合いを大切にしながら、よりよい社会づくりに参画し、行動する人」としています。

有徳の人づくり

- 有徳の人づくりについては、「できている」(4.7%)と「おおむねできている」(38.8%)を合わせた43.5%が「有徳の人」として行動できていると回答している。



Q8 あなたは、この1年でどのくらい、文化・芸術に関する鑑賞又は活動をしましたか。(〇は1つ)

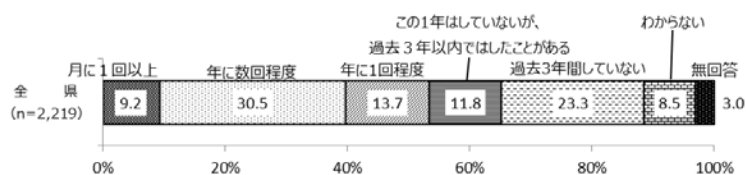
※「文化・芸術」とは、芸術(音楽、美術、演劇、舞踊、映画等)、芸能(歌舞伎、能、講談、落語、浪曲、漫才、歌唱等)、文芸(短歌、俳句、詩、小説等)、生活文化(お茶、生け花、手芸等)を意味しています。

※「鑑賞」とは、ホールや劇場、映画館や美術館、博物館などの会場で、文化・芸術を見たり聞いたりした経験を意味しています。

※「活動」とは、個人又はグループで、文化・芸術を継続して行う経験を意味しています。単発の活動やお試しの体験講座等は含みません。

文化・芸術の鑑賞又は活動

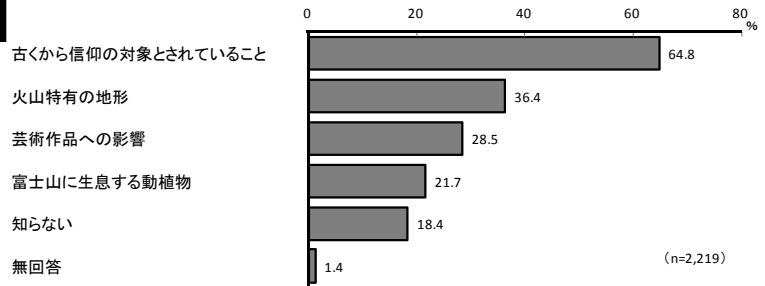
- この1年で、文化・芸術に関する鑑賞又は活動をした回数については、「月に1回以上」(9.2%)、「年に数回程度」(30.5%)、「年に1回程度」(13.7%)を合わせた53.4%がこの1年で文化・芸術の鑑賞又は活動をしている。



Q9 あなたは、富士山の世界遺産としての価値が、次のうち、どれであるか知っていますか？（〇はいくつでも）

富士山の世界遺産としての価値の理解

●富士山の世界遺産としての価値の理解について、「古くから信仰の対象とされていること」（64.8%）が最も高く、6割以上となっている。以下、「火山特有の地形」（36.4%）、「芸術作品への影響」（28.5%）、「富士山に生息する動植物」（21.7%）となっている。また、「知らない」は18.4%となっている。



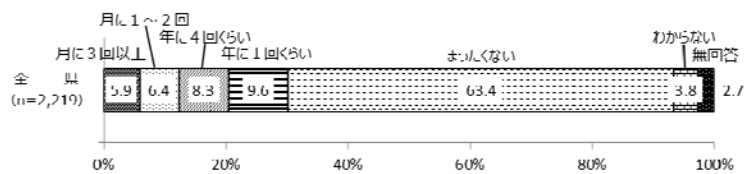
Q10 あなたは、この1年でどのくらい、次にあげるような「子どもをはぐくむ活動」に参加しましたか。（〇は1つ）

「子どもをはぐくむ活動」の例

- ・PTAや健全育成会、子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、子育てサークル等の活動
- ・学校支援活動や地域における活動（授業や学校行事への協力、部活動支援、放課後の学習支援、花壇整備、登下校見守り、本の読み聞かせ など）

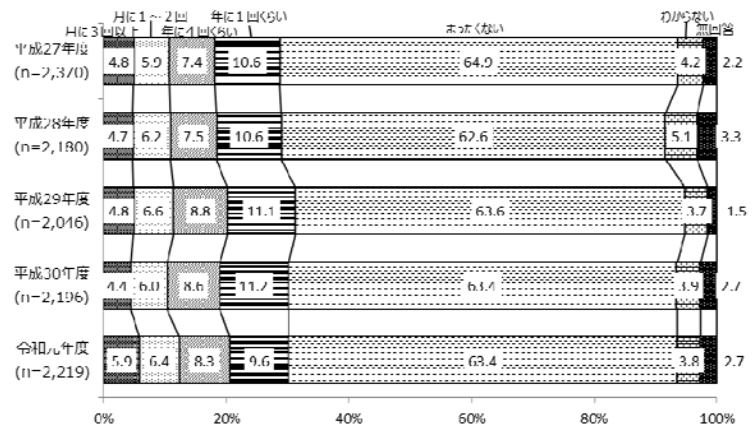
子どもをはぐくむ活動

●子どもをはぐくむ活動については、「月に3回以上」（5.9%）、「月に1～2回」（6.4%）、「年に4回くらい」（8.3%）、「年に1回くらい」（9.6%）を合わせた30.2%が子どもをはぐくむ活動を「している」と回答している。



経年比較

●平成27年度以降の推移で見ると、子どもをはぐくむ活動を「している」人の割合は、毎年度3割前後で推移している。



Q11

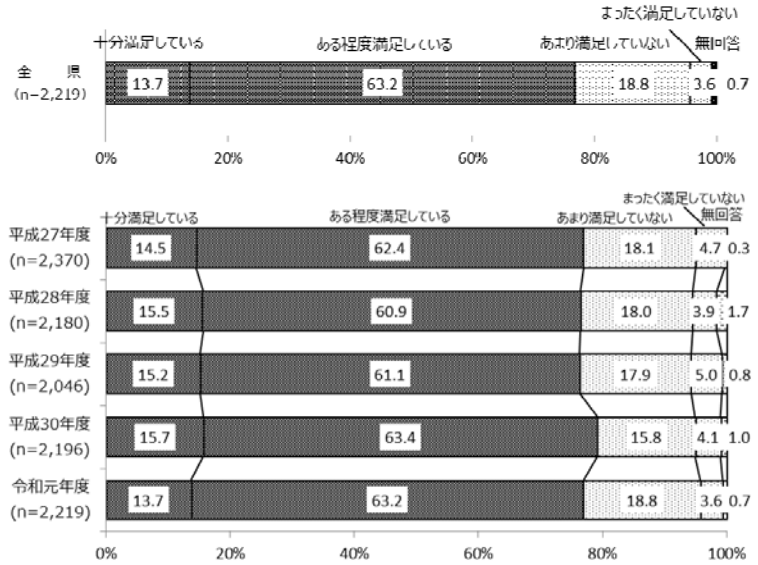
あなたは、現在お住まいの住宅と、住宅のまわりの環境について、どの程度満足していますか。(〇は1つ)

住宅・住環境の満足度

- 住宅と、住宅のまわりの環境についての満足度は、「十分満足している」(13.7%)、「ある程度満足している」(63.2%)を合わせた76.9%が満足していると回答している。

経年比較

- 平成27年度以降の推移で見ると、満足している割合は7割台で推移している。



Q12

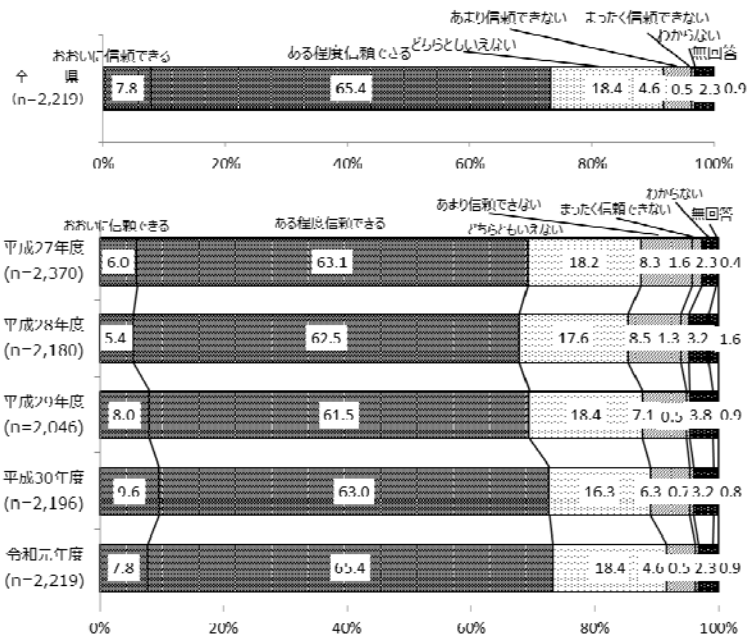
あなたは、県内で購入する食品の安全性について、どの程度信頼できると思いますか。(〇は1つ)

食品の安全性

- 県内で購入する食品の安全性の信頼については、「おいちに信頼できる」(7.8%)、「ある程度信頼できる」(65.4%)を合わせた73.2%が信頼できると回答している。

経年比較

- 平成27年度以降の推移で見ると、県内で購入する食品の安全性を信頼できる人の割合は平成28年度から4年連続で増加した。

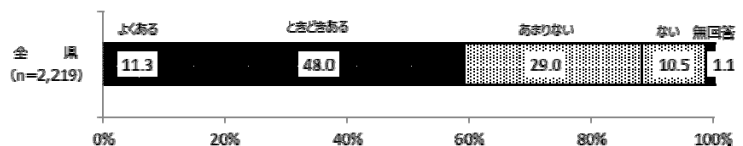


Q13

あなたは、商品・サービスを選択する際に、環境保全、被災地の支援、地産地消、開発途上国の労働者の生活改善など、社会貢献につながるものを意識的に選択することがありますか。(〇は1つ)

消費者市民社会

- 消費者市民社会については、「よくある」(11.3%)、「ときどきある」(48.0%)を合わせた59.3%が社会貢献につながるものを意識的に選択することがあると回答している。



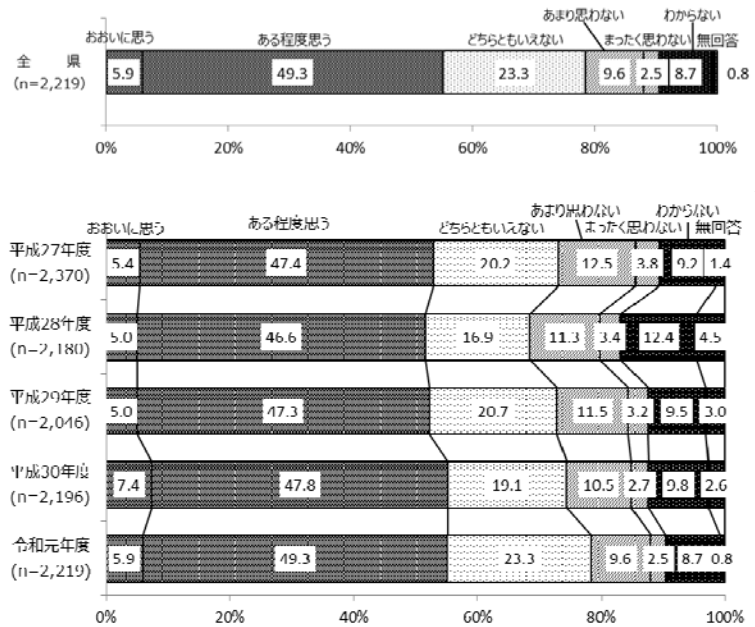
Q14 あなたがお住まいのまちは、子どもを生み育てやすいところだと思いますか。(〇は1つ)

子どもの生みやすさ、育てやすさ

- 子どもの生みやすさ、育てやすさについては、「おおいに思う」(5.9%)、「ある程度思う」(49.3%)を合わせた55.2%が、子どもを生み、育てやすいところだと思うと回答している。

経年比較

- 平成27年度以降の推移で見ると、子どもを生み、育てやすいところだと思う人の割合は毎年度5割台で推移している。



Q15 あなたは、環境への配慮を実践していますか。(〇は1つ)

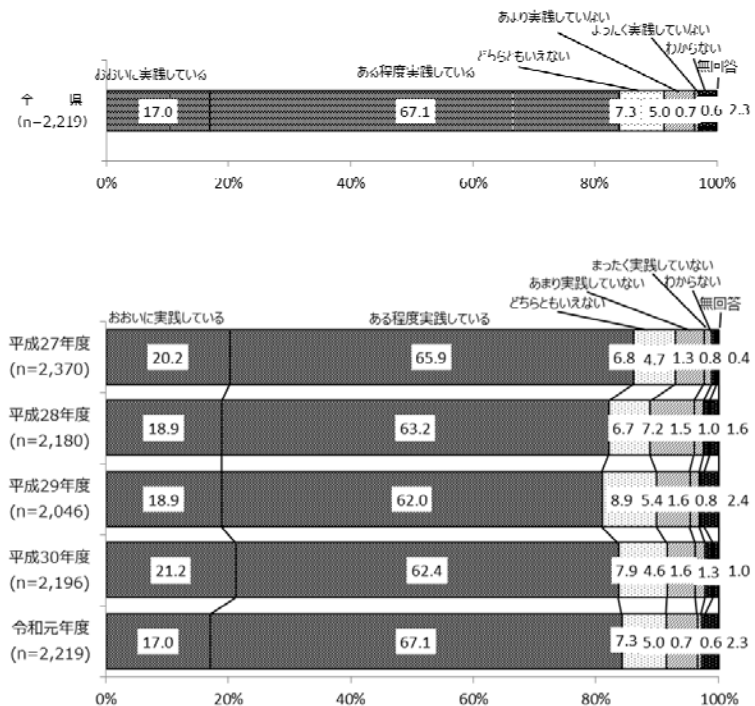
「環境への配慮」の例 節電や節水、家庭ごみの分別、マイバッグの持参、低燃費車や省エネ家電への切り替え、エコドライブ、清掃活動への参加、緑化など

環境保全活動の実践

- 環境保全活動の実践については、「おおいに実践している」(17.0%)、「ある程度実践している」(67.1%)を合わせた84.1%が環境への配慮を実践していると回答している。

経年比較

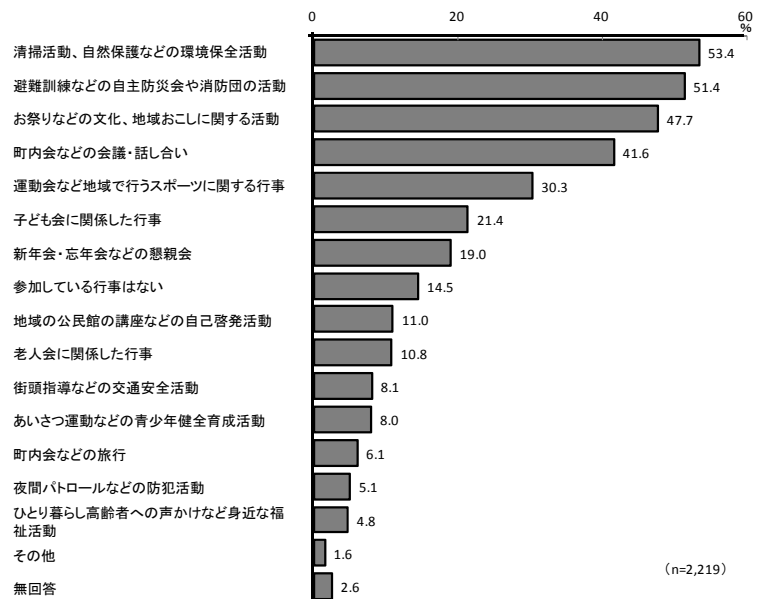
- 平成27年度以降の推移で見ると、環境への配慮を実践している人の割合は毎年度8割台で推移している。



Q16 あなたは、地域のどのような行事や活動に参加したことがありますか。
(〇はいくつでも)

県民の地域活動への参加

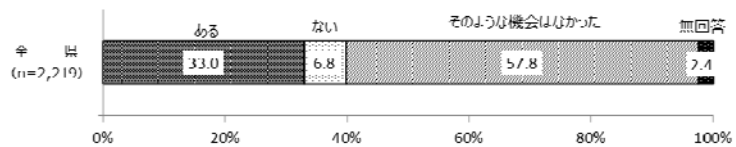
●参加している地域の行事や活動については、「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」と回答した人が53.4%と最も高く、次いで「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」(51.4%)、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」(47.7%)となっている。



Q17 あなたは、この1年間に、困っている人を見かけた際に声をかけたことがありますか。困っている人を見かけなかった方は「3 そのような機会がなかった」を選んでください。(〇は1つ)

心のユニバーサルデザインの実践

●心のユニバーサルデザインの実践については、困っている人に声をかけたことが「ある」と回答した割合は33.0%で、「ない」と回答した割合は6.8%となっている。なお、「そのような機会がなかった」は57.8%となっている。

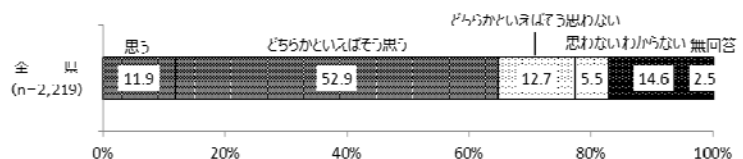


Q18 あなたのお住まいの地域は、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思いますか。(〇は1つ)

「地域の絆や支え合い」・・・地域の防災や防犯、環境美化、高齢者の見守り等の福祉などを含む幅広い住民のふれあいや助け合いの仕組みのことをいいます。

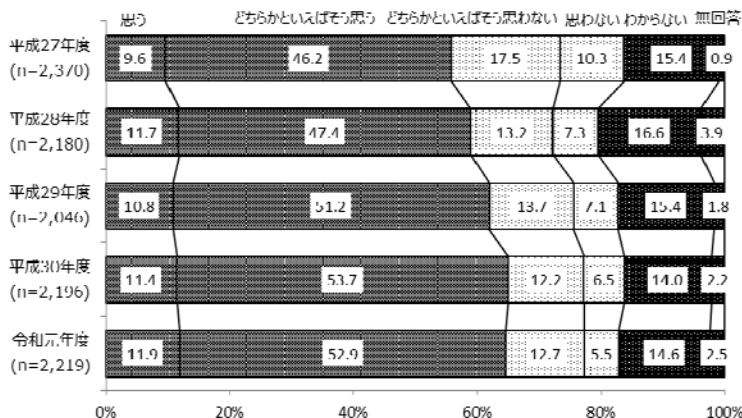
地域コミュニティの活性化

●地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思うかについては、「思う」(11.9%)、「どちらかといえば思う」(52.9%)を合わせた64.8%が、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思うと回答している。



経年比較

- 平成27年度以降の推移でみると、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思う人の割合は前年度の65.1%と比べて、今年度(64.8%)はわずかに低くなっている。

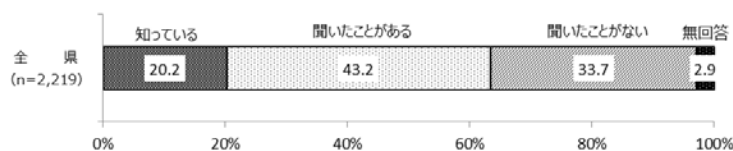


Q19 「生物多様性」という言葉や意味について、どの程度知っていますか。(〇は1つ)

「生物多様性」… 地域ごとに固有の自然があり、それぞれに特有の生きものがいることを、そして、生きものが生物間の“食べる-食べられる”といった食物連鎖などの関係でつながっていることをいいます。

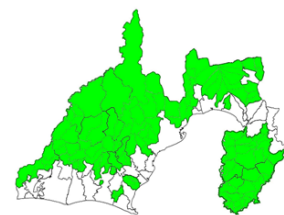
生物多様性への理解

- 「生物多様性」という言葉や意味については、「知っている」(20.2%)、「聞いたことがある」(43.2%)を合わせた63.4%が生物多様性について認知していると考えられる。



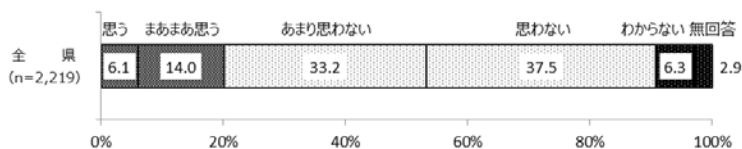
Q20 あなたは、中山間地域に住みたいと思いますか。(中山間地域にお住まいの方は、住み続けたいと思いますか。)(〇は1つ)

※「中山間地域」とは、「平野の周辺部から山間部に至る地域」で、農林業を主な産業としている地域のことをいいます。
※県内の中山間地域のイメージは図(網掛け部分)のとおりです。



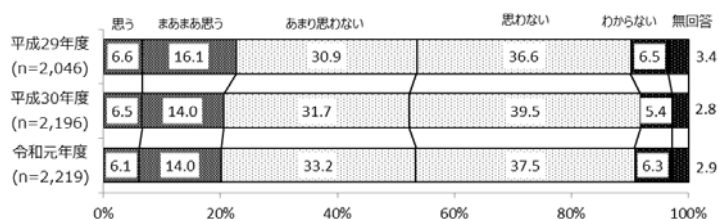
中山間地域での生活意向

- 中山間地域に住みたいと思うかについては、「思う」(6.1%)、「まあまあ思う」(14.0%)を合わせた20.1%が、中山間地域に住みたいと思うと回答している。



経年比較

- 平成29年度以降の推移でみると、中山間地域に住みたいと思う人の割合が、今年度は20.1%と前年度(20.5%)を0.4ポイント下回っている。



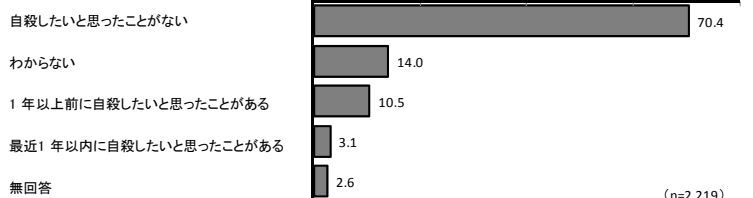
自殺に関する意識

Q21

あなたは、これまでの人生の中で本気で自殺したいと考えたことがありますか。
 (「1年以上前に自殺したいと思ったことがある」と「最近1年以内に自殺したいと思ったことがある」の両方○は可)

自殺願望

- これまでの人生で、自殺をしたいと考えたことがあるかたずねたところ、「自殺をしたいと思ったことがない」と回答した人の割合が70.4%で最も高く、次いで、「わからない」(14.0%)、「1年以上前に自殺をしたいと思ったことがある」(10.5%)となっている。



Q22

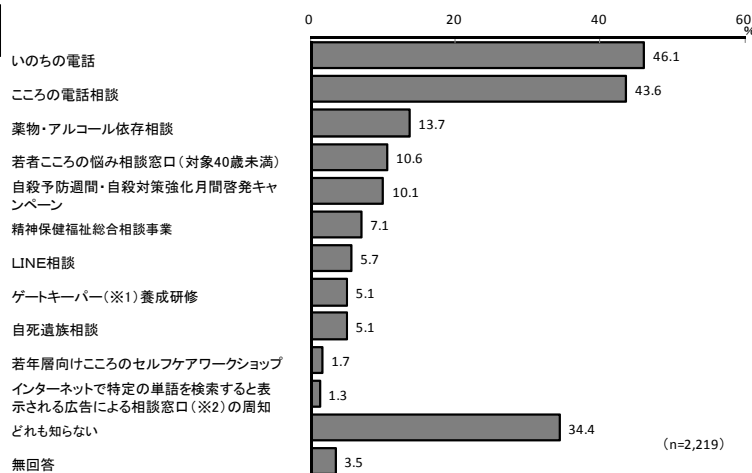
静岡県で実施している自殺対策を知っていますか。(○はいくつでも)

※1 「ゲートキーパー」… 悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人のことをいいます。

※2 行政が行う相談の窓口を紹介するサイト「うちあけダイヤル」が広告として表示されます。

静岡県が行う自殺対策

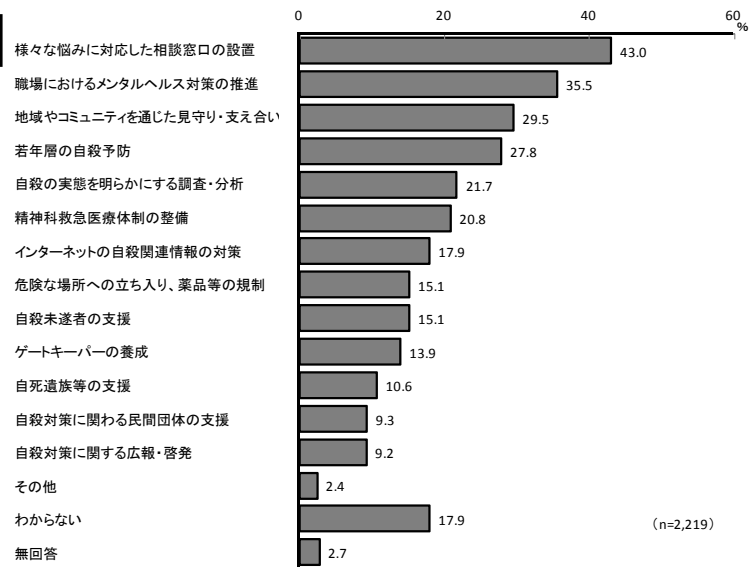
- 静岡県で実施している自殺対策を知っているかたずねたところ、「いのちの電話」と回答した人の割合が46.1%で最も高く、次いで、「こころの電話相談」(43.6%)となっている。なお、「どれも知らない」は34.4%となっている。



Q23 どのような自殺対策が今後求められると思いますか。(〇はいくつでも)

今後必要な自殺対策

●静岡県で今後求められる自殺対策についてたずねたところ、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」と回答した人の割合が 43.0%で最も高く、次いで、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」(35.5%)、「地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い」(29.5%)となっている。なお、「わからない」は 17.9%となっている。



荒廃森林の再生と「森林（もり）づくり県民税」

Q24

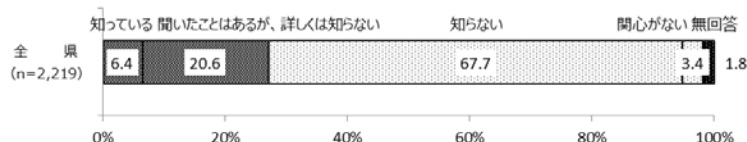
県では、荒廃している森林のうち、緊急性の高い森林を整備する「森の力再生事業」を行っています。あなたは、「森の力再生事業」を知っていますか。（○は1つ）

SQ

あなたは、「森の力再生事業」を、どのような方法で知りましたか。（○はいくつでも）

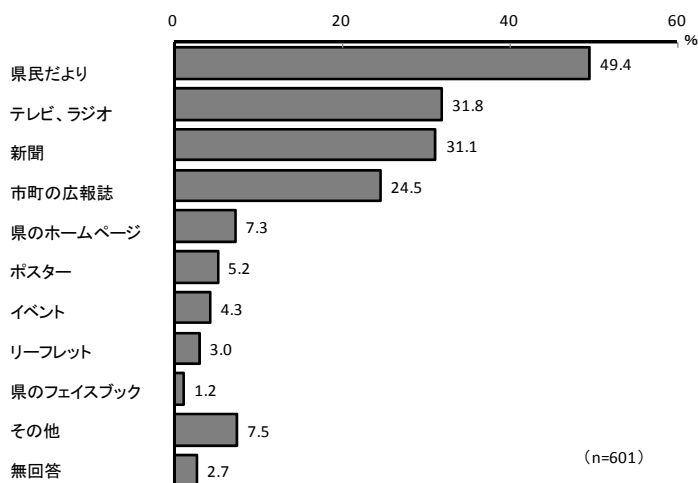
「森の力再生事業」の認知度

- 「森の力再生事業」の認知度については、「知っている」（6.4%）、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」（20.6%）を合わせた27.0%が「森の力再生事業」を認知していると回答している。



「森の力再生事業」の認知媒体

- 「森の力再生事業」の認知媒体については、「県民だより」と回答した人の割合が49.4%と最も高く、次いで「テレビ、ラジオ」が31.8%、「新聞」が31.1%となっている。

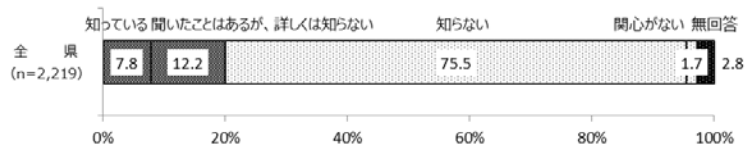


Q25

「森の力再生事業」を行うために、県では、平成18年4月から県民の皆様に「森林（もり）づくり県民税」（個人400円/年）を負担していただいています。あなたは、「森林（もり）づくり県民税」を知っていますか。（○は1つ）

「森林（もり）づくり県民税」の認知度

- 「森林（もり）づくり県民税」の認知度については、「知っている」（7.8%）、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」（12.2%）を合わせた20.0%が「森林（もり）づくり県民税」を知っていると回答している。



静岡県における人口減少

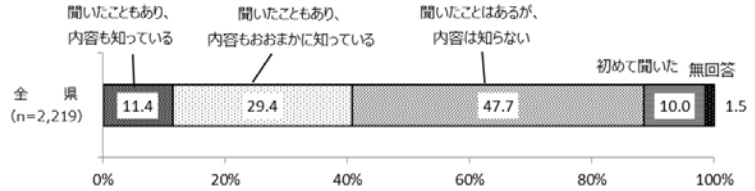
Q26

静岡県で人口が減少していることを、あなたはどの程度知っていますか。

(○は1つ)

静岡県で人口が減少していることの認知度

●人口が減少していることへの理解については、「聞いたこともあり、内容も知っている」(11.4%)、「聞いたこともあり、内容もおおまかに知っている」(29.4%)を合わせた40.8%は静岡県の人口が減少していることについて理解していると思うと回答している。



Q27

静岡県では人口が減少していることについて、あなたはどうお考えですか。

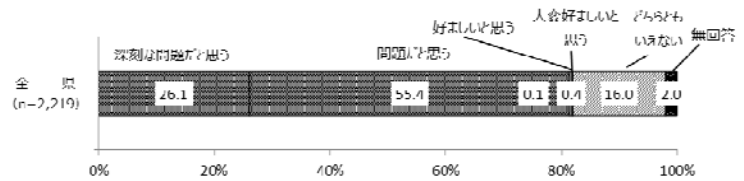
(○は1つ)

SQ

そのように思う理由は何ですか。(○は3つまで)

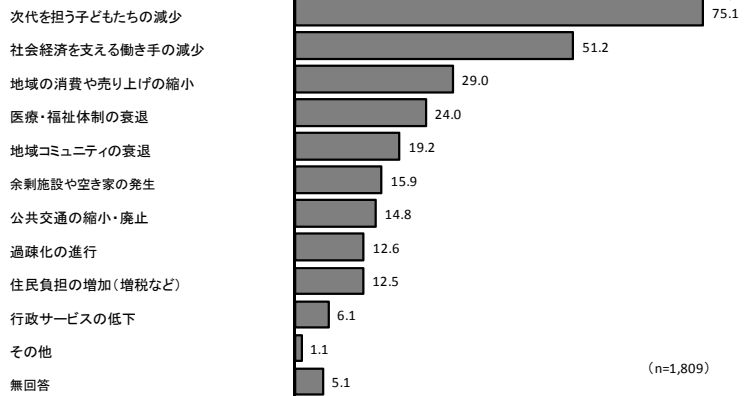
静岡県の人口が減少していることへの考え

●静岡県の人口が減少していることへの考えについては、「深刻な問題だと思う」(26.1%)、「問題だと思う」(55.4%)を合わせた81.5%は人口が減少していることを問題に思うと回答している。



人口が減少していることを問題に思う理由

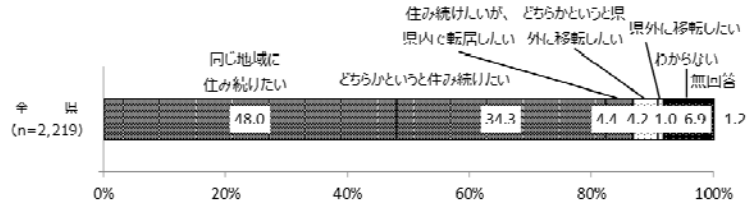
●人口が減少していることを問題に思う理由については、「次代を担う子どもたちの減少」と回答した人の割合が75.1%と最も高く、次いで「社会経済を支える働き手の減少」が51.2%、「住民負担の増加(増税など)」が29.0%となっている。



Q28 あなたは、これからも静岡県に住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

静岡県への継続居住意向

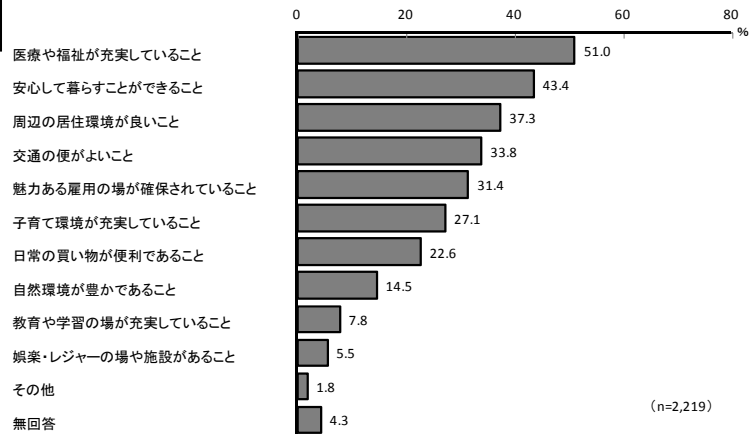
- 静岡県に住み続けたいかについては、「同じ地域に住み続けたい」(48.0%)、「どちらかというに住み続けたい」(34.3%)、「住み続けたいが、県内で転居したい」(4.4%)を合わせた86.7%が静岡県に住み続けたいと回答している。



Q29 これからも県民に静岡県が愛され、住み続けていただくためには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

静岡県への継続居住に必要なこと

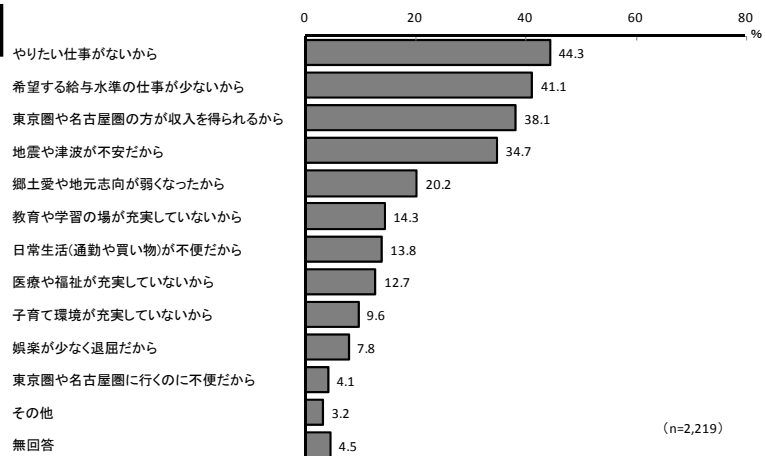
- 静岡県への継続居住に必要なことについては、「医療や福祉が充実していること」の割合が51.0%と最も高く、次いで「安心して暮らすことができること」(43.4%)、「周辺の居住環境が良いこと」(37.3%)となっている。



Q30 静岡県では、他県からの転入者より他県への転出者が多い「転出超過」の状態にあります。これは何が原因だと思いますか。(〇は3つまで)

静岡県が「転出超過」となる原因

- 静岡県が「転出超過」となる原因については、「やりたい仕事がないから」の割合が44.3%と最も高く、次いで「希望する給与水準の仕事が少ないから」(41.1%)、「東京圏や名古屋圏の方が収入を得られるから」(38.1%)となっている。



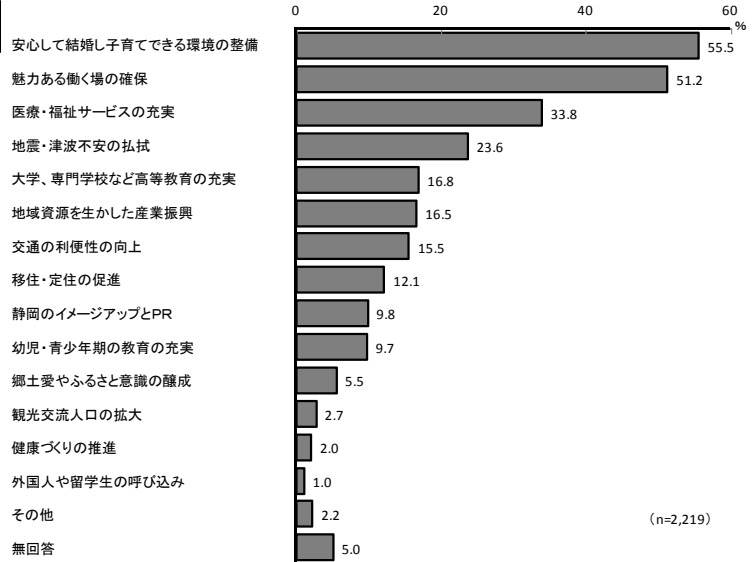
Q31

静岡県では、出生数の減少や転出者の増加などから、人口が減少しています。人口の減少を抑えていくための静岡県の対策として、何が重要だと思いますか。

(〇は3つまで)

人口減少を抑えるための対策

- 人口減少を抑えるための対策については、「安心して結婚し子育てできる環境の整備」の割合が55.5%と最も高く、次いで「魅力ある働く場の確保」(51.2%)、「医療・福祉サービスの充実」(33.8%)となっている。



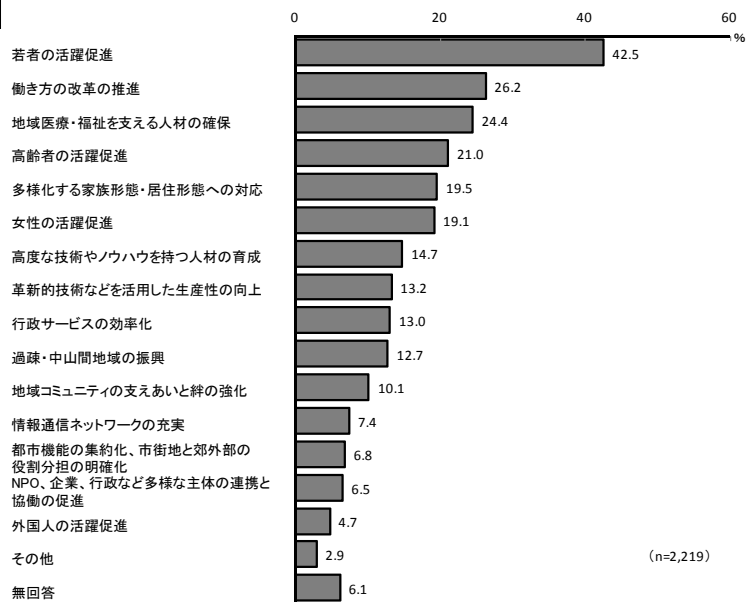
Q32

我が国では人口減少が一層加速化することが想定されています。静岡県も例外ではない中、人口減少社会に適応するためには、どのような対策が必要だと思いますか。

(〇は3つまで)

人口減少社会に適応するための対策

- 人口減少社会に適応するための対策については、「若者の活躍促進」の割合が42.5%と最も高く、次いで「働き方の改革の推進」(26.2%)、「地域医療・福祉を支える人材の確保」(24.4%)となっている。



令和元年度

県政世論調査（概要報告書）

令和元年 11 月

編集・発行 静岡県知事戦略局広聴広報課 県民のこえ班

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

電話 (054) 221-2235

FAX (054) 254-4032

e-mail kenminnokoe@pref.shizuoka.lg.jp
